

講義名	経営情報システム論(経営学科)			授業形態	
担当教員	赤川 元昭	開講期・曜日・時限	前期 月曜日 3時限		
		単位数	2	履修開始年次	3年生

主題と概要

コンピュータに代表される情報技術の進歩は目覚しく、20世紀後半以降、われわれの社会を大きく変革してゆく原動力となっている。経営情報システム論では、学生が情報技術に関する基本的な知識を身につけることを目的とする。また、講義内容を具体的に理解しやすいものにするため、ビデオなどの視聴覚教材をできる限り利用する予定である。なお、当講義は、「経営情報論(後期開講)」と一対をなす科目であり、情報技術に関する基本的な知識については、この「経営情報システム論(前期開講)」で詳しく解説する。どちらの科目から履修しても全く問題ないが、情報技術について、まったくの理解不足だと不安をもつ学生であれば、この経営情報システム論から履修するのがいいのではないかとと思う。

到達目標

- ・情報化時代を生きる社会人として、最低限必要な情報技術に関する知識を身につける(たとえば、ごく基礎的な情報技術用語を説明することができる)。
- ・企業の事例を通じて、情報技術が企業活動のどのような局面で利用され、どのように役立っているのかを具体的に述べることができる

提出課題

講義期間中、複数回の提出課題を出題する。また、アンケートを行う場合がある。

課題(レポートや小テスト等)に対するフィードバックの方法

提出課題については、講義期間中にその解答の解説を行う。なお、アンケートについては、特にフィードバックは行わない。

評価の基準

- ・講義期間中に実施される複数の提出課題の合計をもとに評価する。
- ・ここ数年では、合格者の割合は70%程度、平均点は約70点である。

履修にあたっての注意・助言他

ごく当たり前のことだが、他の受講生に迷惑をかけるような行為(私語など)は慎むこと。

教科書

.使用しない。

参考図書

.なし。

その他

さらに勉強したい人のための文献
「経営情報システム(第4版)」 宮川公男 中央経済社
「稲木先生のITパスポート教室 令和06年。」 稲木厚 技術評論社

授業計画

- 1 はじめに：この講義の概要
- 2 情報化時代、情報化社会
- 3 ハードウェア(ハードウェア構成)
- 4 ハードウェア(OS)
- 5 ハードウェア(記憶装置)
- 6 ソフトウェア
- 7 情報処理方式
- 8 ビットとバイト 情報処理の単位
- 9 日本語処理
- 10 マルチメディア(音声処理)
- 11 マルチメディア(画像処理)
- 12 マルチメディア(圧縮技術)
- 13 ネットワーク
- 14 情報技術とその社会的インパクト
- 15 予備日

授業形態(アクティブ・ラーニング)

ア：PBL(課題解決型学習)	イ：反転授業(知識習得の要素を授業外に済ませ、知識確認等の要素を教室で行う授業形態)
ウ：ディスカッション、ディベート	エ：グループワーク
オ：プレゼンテーション	カ：実習、フィールドワーク
キ：その他(A-L型であるけども、以上の項目のいずれにも該当しない場合)	

準備学修(予習・復習等)の具体的な内容及びそれに必要な時間

本講義は、情報技術と経営の関連性について、学生に関心を持ってもらうことを主眼にしており、特に予習は必要ないが、復習は非常に重要である。興味を持った話題があれば、各自、自主的にその話題について勉強することをおすすめする。その際には、上掲した「さらに勉強したい人のための文献」を参照することが効果的である。たとえば、「稲木先生のITパスポート教室」をはじめ、ITパスポート試験の教本には、通常、解説のみならず、練習問題も多数掲載されており、これらを解答することによって、さらに理解が深まることだろう。この場合、1回の講義に関する復習には最低でも4時間程度がかかると思われる。

卒業認定・学位授与の方針と当該授業科目の関連

本科目の到達目標を達成することは、本学の卒業認定・学位授与の方針(ディプロマポリシー)および教育課程編成・実施の方針(カリキュラムポリシー)における「卒業時に共通して身につけておくべき資質・能力」および「基礎能力」の中で、情報収集力、情報分析力の項目に寄与するものと思われる。

双方向授業の実施及びICTの活用に関する記述

実務経験の有無及び活用

大手国産コンピュータメーカーのSE(システムエンジニア)、研究員としての実務経験あり。

備考